

都市環境デザイン会議北陸 in 富山 2024

日時：2024年10月19日（土）12:20～17:30

会場：富山県民会館 701号室+オンライン開催

参加者：会場参加 22名、オンライン参加 7名
計 29名

プログラム：

◎まちづくり見学

『公営住宅の再生・利活用について』

SCOP TOYAMA

（富山県創業支援センター/富山県創業・移住促進住宅）

◎富山県におけるスタジアム構想の現状報告

『とやまスタジアムランドプロジェクト』

遠藤 忠洋氏（(公社) 富山県サッカー協会副会長）

◎パネルディスカッション

コーディネーター

武山 良三氏（富山大学理事・JUDI 会員）

パネリスト

荘司 洋文氏（(株)キタック・JUDI 会員）

柳原 恭順氏（(株)三四五建築研究所・JUDI 会員）

島 由治 氏（アルスコンサルタンツ (株)・JUDI 会員）

玉森 慶三氏（福井県文化振興事業団・JUDI 会員）

コメンテーター

遠藤 忠洋氏（(公社) 富山県サッカー協会副会長）

フォーラム「スタジアム・アリーナと都市デザイン 街の価値を高める拠点の充実」は、2022年10月にオープンした SCOP TOYAMA の視察からスタートです。創業支援センター棟から、常駐スタッフのお二人にご案内いただきます。

SCOP TOYAMA は、旧県職員住宅を創業・移住促進住宅（西・東）やシェアオフィス、コワーキングスペースにリノベーションされた施設です。施設内の利用人気ベスト3は、チャレンジショップ、オヤコワーキングスペースとコワーキング、イベントスペースだということです。

随所に公営住宅の面影がありましたが、うまくリノベーションされていて、快適に仕事が出来るようなシェアオフィスとなっていました。



概要説明を聞く様子



SCOP TOYAMA 創業支援センター棟をご案内



随所に公営住宅の面影があります

富山県民会館 701 号室に移動し、フォーラムです。ブロック幹事の小見直樹氏からご挨拶をいただき、司会は富山メンバーの酒井信次さんです。



ブロック幹事の挨拶 小見直樹氏



司会の酒井信次氏

■ 富山県におけるスタジアム構想の現状報告

◆ 『とやまスタジアムランドプロジェクト』

遠藤 忠洋氏（(公社) 富山県サッカー協会副会長）

昨年9月末、富山県サッカー協会が富山県に専用スタジアムを作るという宣言をした。「とやまスタジアムランドプロジェクト みんなでワクワクまちづくり」というプロジェクト名で、ここに来たらみんながワクワク・ドキドキするというのが一番のテーマ。

まずはスタジアムランド像のイメージを10個出した。県でも目指されている関係人口の増加のためには富山の魅力を伝えなくてはならない。また、スタジアムに色んな機能を持たせることで自走する運営にも繋がるのではないかと考えた。

イメージをもとに基本コンセプトを考えて共有している。1つ目は県民がワクワク・ドキドキして、訪れたい富山の新しいシンボル。ピッチと観客

の距離を近くすることで、選手の声やボールを蹴る音などを身近に聞くことができればよいと思う。また、富山の寿司を食べられるようにすることで県のお寿司をブランディングするという県の構想にも協力できればと。エスコンフィールドや長崎スタジアムシティのように地元の人たちにとってもシンボルとなる場所にしたい。

2つ目は県内外の新たな交流が生まれ、富山の関係人口を増加させること。ここを富山のビジネスが交流する場所にしたい。会議や社会実験などをスタジアムで行うことができ、富山の若者が経済界の人に会える場とすることでビジネスチャンスを与える場にもしたい。また、県外やインバウンドの観光客に観光の場所として周知されるようなところになりたいと考えている。

3つ目は富山の都市競争力を高め、持続可能なまちづくりの拠点となること。まだ場所は決まっていないが、公共交通機関が使える場所にしたいと思っている。試合が終わった後に飲食店へ行くことにも繋がることで楽しいまちになり、活性化に繋がる。富山県民やカタールレサポーターなどの皆さんに行ったアンケートでは公共交通機関を使いたいという意見が7割を超え、前後に遊べる場がほしいという意見もあった。

今後の課題としては、まずはどこに作るのか。まちなかか郊外、また富山市や高岡市、射水市などどの市に作るのかも検討する必要がある。次に建設資金の調達をどうするのか。また、経営や運営の主体も県が行うのか、市が行うのか、県内企業のJV、PFIか県外の大手企業に依頼するのも考えている。しかし運営は自走することが理想。付帯機能としては、カフェ、温浴施設、回転寿司、もしくは富山の体験施設などさまざまなアイデアがある。



富山県におけるスタジアム構想の報告をされる遠藤忠洋氏

このプロジェクトを進める上でステークホルダーになるのはカタレ富山。スタジアムの観客動員数が増えるなど、カタレ富山に非常にメリットがあるが、コンテンツ力、エンタメ力をJリーグチームでどう高めるかは課題だそう。カタレ富山を世界に知っていただくことがこれから大事になっていく。プロサッカーの試合は365日のうち30試合しかしない。残りの330日にどう賑わいを作るのかを考えていきたい。

今考えていることはまず、ここに来た人がワクワク・ドキドキする場所か。そして、万人受けを目指すのではなく突き抜けたものを作るにはどうするか。観戦だけではなく、平日も遊びに行くことができるような場所を作っていきたい。

■ パネルディスカッション

まず4県のスタジアム・アリーナに関して話題提供いただきました。新潟の荘司さんは「新潟のスタジアム・アリーナ」、富山の柳原さんは「富山のスポーツ観戦事情」、石川の島さんは「金沢スタジアムと都市デザイン」、福井の玉森さんは「福井アリーナ構想について」と題して発表いただきました。



話題提供いただく荘司洋文氏



話題提供いただく柳原恭順氏



話題提供いただく島由治氏



話題提供いただく玉森慶三氏

遠藤氏の報告と4県の話題提供を受けて、武山良三先生のコーディネートによるパネルディスカッションです。



左から：玉森氏、島氏、柳原氏、荘司氏、遠藤氏、武山先生

(武山氏) 立地に関連して、車なのか公共交通機関なのか。これらは地方都市においては非常に大きな問題ではないかと思う。公共交通を最大限生かして同じタイミングで発生する退場者をどう移動させるのか考える必要がある。アクセスについてどのような形で捉えていくのがいいか。

(**莊司氏**) 距離よりは時間が重要。公共交通機関が近く、利用できることが一番大事な条件だと思う。

(**柳原氏**) 立地としてはまちなかが理想。車でしか行けない立地の施設は作るべきではないが、スタジアムは面積が大きいこともありまちなかに作るというのは難しいのでまちなかの公園を使うのが現実的。まちなかだとすれば駅から徒歩10分以内に収まるのが理想。富山市ではたくさんの人を一気に運べる鉄道が使える場所が最優先なのでは。あいの風鉄道や富山地方鉄道などあるので、若干外れた駅だとしてもその直近に作ればいい。交通の便が最優先だと思う。

(**島氏**) 金沢については、まちなかに作ることでできる場所はないために現在の立地になった。富山のような駅直結型は非常にうらやましい。駐車場については、料金設定を工夫するなど公共交通に誘導するような仕掛けが必要なのではと思う。

(**玉森氏**) 福井の場合は場所が決まっています、歩く動線について考える必要がある。コンベンションで県外から来る人は新幹線に乗って駅から歩くと思うが、県内は車社会のために電車は頻度が少ないなどの問題もある。それに慣れるような都市構造にしないといけない。アリーナが福井のまちを賑わす起爆剤になればいい。

(**武山氏**) テクノホールは新幹線の駅にも近く、イオンがあるので参加者も食事など時間を過ごすことができる。公営型の幹線道路も整備されていて車と公共交通のハイブリッドな場となっている。

(**遠藤氏**) この構想を立ち上げたときに最初に手を挙げてくれたのが高岡市。日本で一番新幹線の近いスタジアムになると市長がおっしゃっていた。ただ、一番懸念しているのは、移動することでカタレ富山の調子が変わること。また、50年続くスタジアムを目指しているが、富山県の人口が減る中で50年後の高岡市のイメージができない。そこを検討しているところだ。

(**武山氏**) 観戦する方をメインにすると話題には上れると思うが、拠点として機能していくためには地域のスポーツ拠点とすることも必要。そういった利用者がアクセスできる場かも考える必要がある。また地元でどれだけ人が入るかを考えたときに、熱心な遠方からの観客の存在は必要。発表の中でも多かったのは、スポーツ以外の機能として何を想定するか。機能を多くしすぎると便利な一方で逆に機能性が下がってしまう。



コメンテーターの遠藤氏、コーディネーターの武山先生

(**玉森氏**) サッカーなどは30日、バスケは50日しか試合をしない。そういう施設に商業施設をつけても赤字になってしまう。スポーツによって夢のようなまちづくりになることは不可能。その分加える機能を見極める必要がある。赤字になったとしても文化は残る。その覚悟を持って運営をしなくてはならないのではないかと。

(**島氏**) 金沢スタジアムでは運営されているツエーゲン金沢の企画で、イベントはされているが、集客は少ない。今年からJ3に落ちてしまい下火になっている。強くなるのが先か、サポートを一生懸命するのが先かは悩ましいところ。

(**武山氏**) 他県の事例を見ていい企画はあったか。

(**遠藤氏**) エスコンフィールドはこれまでの球場の概念を変えた。演出だけでなく雰囲気も行く人が楽しみにしているのがわかった。パークやスタジアムというような概念は今の日本人にはないのでそういう概念を変えた方がいいと考える方が多くいる。

(**武山氏**) 付帯機能についての願望はないか。

(**柳原氏**) 民間施設を置いたものは将来的な不安があるので機能は単純化した方が利益は少なくてもしっかりやっていると。公共施設との相性がいいと思うので、コンベンションができるようなところや、保育所やスーパーマーケットなど毎日の生活で使うような施設がいいと思う。

(**島氏**) スポーツ観戦ではお酒を飲みたくなる。駅直結のスタジアムではそれが可能になるので、寿司バーなどをすると観光資源になる。

(**玉森氏**) 来る人へのサービスとしてお酒を提供するようなことはいいと思う。来る人へのサービスだけでなく、公共の目的を達してスポーツを楽しむ場にしないといけない。試合は30日しかない

として、他の日に付帯施設は利用してもスタジアムは利用しないのかもという疑問もある。

(武山氏) できるだけ生活の中で利用していただけるような候補だけでなく、もう一つの観点として体を動かすことや健康が挙げられると思う。今日のまちづくり見学でもダンスパフォーマンス、スケボー、ストリートパフォーマンスなどは若い学生も興味がある。

(遠藤氏) プロは30日だが、小中学生や高校生などの利用もある。若い人たちは遊びに来てくれるだけでよくて、その家族も一緒に来てもらえれば。

(武山氏) 資金や運営の話も出ていたが、イニシャルコストは公が責任を持って行い、民間にノウハウを教えていただくという話もあった。運営は民間主体にしていくという話が多かったと思う。そして最後に、カタレ富山の躍進について。たしかに地元のチームが活躍して上に上がらない限りはお金も集まらないし、盛り上がることは難しい。

(荘司氏) スポンサーにお願いして施設の環境を整えてもらうことで、そのぶん一流のものに触れる機会が増える。そういったものも投資になると思う。

(玉森氏) 超一流の音楽家と地元の音楽家がセッションするように、スポーツも教育として一流のスターと子供と一緒に運動する。上級者と学校教育などで関わることはコンテンツを盛り上がるきっかけになるのではないか。

(島氏) スタジアムの近くにスポーツ医療系の機能を持った合宿所を作るだけで世界中から来る人が増えると思う。

(柳原氏) 野球を好きな人は多いが、サッカーやバスケは、地元クラブの試合をテレビ放送することはない。カテゴリは別として、リーグで勝つことがクラブとして最優先。それに伴って観客数が増えて、テレビ放送で知名度も増え、地元のチームや選手を応援するという機運が高まる。

(遠藤氏) スポーツのおもしろさを伝えるために子どもたちにプロ選手が教えるという活動が必要。実際カタレはそういった活動を始めていて、そこからスポンサーや地域活動に広げていってほしいと思う。

(武山氏) 今大学では地元チームのパブリックビューイングを始めようとしている。地元チームのパブリックビューイングを始めることで、学生も地域にとっても親しみを感じることができ、盛り上がるができる。スーパーでポイントを溜めて招待券

をもらえるような活動など、日常の中で接触機会を増やすことで興味が出てくるような人も増えると思う。それは県民の方々からもそういった活動に税金を使うことが許されるような環境作りが必要。地域での祭りは、建物などのハードに対してまちを維持するためのソフト。これからスポーツは祭りのように地域を発展させるためのソフトになりうるのではないかと。スポーツは老若男女問わずコミュニケーションをとって元気になる大事なこと。スポーツの拠点となるような場所を作っていければと思う。



パネリストの玉森氏、島氏



パネリストの柳原氏、荘司氏



フォーラム終了後の集合写真

■ 交流会

交流会では、恒例の一人一言ということで、メンバーの近況報告を聞くことができました。

また、中締めを野嶋慎二先生にお願いし、二次会では、京都から駆けつけてくださった川上洋司先生に乾杯のご発声をいただきました。



野嶋先生に交流会の中締めをしていただきます



川上先生の乾杯のご発声でスタートです

■ エクスカーション

日時：2023年10月20日（日）9:30～13:00

会場：南砺市

参加者：14名

エクスカーションは、南砺市井波です。ボランティアガイドの藤井さんにご案内いただき、井波別院瑞泉寺まで伸びる「八人町通り」を見学しました。

【お問合せ先】

都市環境デザイン会議北陸ブロック

幹事 ● 小見直樹（エヌシーイー株式会社）

事務局 ● 埴 正浩・高永智恵（㈱日本海コンサルタント）

TEL 076-243-8281 / FAX 076-243-8309

E-mail m-rachi@nihonkai.co.jp

JUDI 北陸ブロックホームページ
<http://www.judi-hokuriku.gr.jp/>

JUDI 北陸ブロック Facebook ページ
<http://www.facebook.com/judi.hokuriku>

井波彫刻の工房を訪ね、彫刻師の作業風景を見学したりお話を伺ったりと大変勉強になりました。



ボランティアガイドの藤井さん



彫刻師の作業風景



●北陸ブロックの今後の活動予定

◇都市環境デザイン会議 2025in 福井

日時：2025年春頃

会場：福井県

◇都市環境デザイン会議全国大会 2025in 新潟

日時：2025年秋頃

会場：新潟県